■緒方竹虎　　言論で{朝日新聞}発展させ，<二・二六事件>で単身叛乱軍と対決，<敗戦>後は政界の重鎮になるも急逝。
おがたたけとら
初の対等条約1888＝　　緒方洪庵の義兄弟研堂の婿養子で内務官僚となった道平の勤め先山形県で，三男に生まれる。
帝国憲法発布1889＝ 1歳：

大本教・・・1892＝ 4歳：父の転任に伴い福岡市に移住，

日清戦争始・1894＝ 6歳：
福岡で育ち，

八幡製鉄始・1897＝ 9歳：

田中正造直訴1901＝13歳：_県立修猷館中学に入学，1年上の中野正剛がいて生涯の親友となり，
安川第五郎と同級で，1年下に田中耕太郎が続く。

剣道と英語に熱中し，無欠席どころか，無遅刻・無早退で通し，実業家を目指すようになって，
日露戦争終・1905＝17歳：
満鉄発足・・1906＝18歳：教師らの私費による辞書を贈られて，卒業。兄らのように旧制高校でなく，東京高商に進む。
早稲田大学に進んでいた中野の下宿に同居するうち，
ｱﾗﾗｷﾞ創刊・ 1908＝20歳：高商の大学昇格目指す騒動から，文部省に反撥して，学生が総退学，決着後も戻らず，
伊藤博文暗殺1909＝21歳：早大専門部政経科2年への編入を認められ，

大逆事件判決1911＝23歳：卒業。_中野の誘いに応じて，大阪朝日新聞社に入社，東京の大阪通信部勤務となる。
明治天皇没・1912＝24歳：_明治天皇崩御に伴う新年号が"大正"となることを三浦梧楼から引出し，大スクープとなる。
弓削田精一のもとで影響を受ける一方，弓削田と対立して退社していた池辺三山にも傾倒，
三浦から嗣子の妻の妹を勧められ，
21ヶ条要求・1915＝27歳：頭山満を仲人に，結婚。朝日の先輩本多精一の紹介で，小坂順造経営の{信濃毎日新聞}に寄稿し始め，
民本主義・・1916＝28歳：長男が誕生。
ロシア革命・1917＝29歳：次男が誕生。
本格政党内閣1918＝30歳：_"白虹事件"のため主筆らが罷免されて論説陣が手薄になった{大阪朝日}に派遣され，単身赴任。
ﾍﾞﾙｻｲﾕ条約・1919＝31歳：この年まで，{信濃毎日新聞}に103回の論説を書いた。朝日が株式会社化し，村山が復帰，
大暴落・・・1920＝32歳：本多が流感で死去すると，その小伝を書いて出版後，_私費留学を願い出て認められ，渡英，
原敬首相暗殺1921＝33歳：ロンドンに滞在するも，消沈気味となりつつあったところ，美土路昌一の一計で，ワシントン軍縮会議特派員団に加えられ，アメリカに渡ると，キャップが急病で来られず，指揮をとった後，ロンドンに戻り，
水平社結成・1922＝34歳：議会制民主主義の精神を吸収して，_帰国。朝日に戻り，かって弓削田の役だった大朝通信部長となり，
関東大震災・1923＝35歳：_東京朝日の整理部長に就任，政治部長を経て，
護憲三派圧勝1924＝36歳：
治安維持法・1925＝37歳：*編集局長となる。以後，下村宏・石井光次郎・美土路昌一らとともに，東京朝日の経営に参画，その発展に多大の貢献をなすとともに，朝日の筆政を主宰するうち，
共産党事件・1928＝40歳：取締役。

満州事変・・1931＝43歳：満州事変後，言論統制が進み始めるなか，
五一五事件・1932＝44歳：_五・一五事件で，親しくしていた政治家犬養毅が暗殺されたことに，衝撃を受け，
国際連盟脱退1933＝45歳：_満州・華北を視察旅行。
帝人疑獄事件1934＝46歳：_復活した{東京朝日}主筆，常務。{文藝春秋}にエッセイ「問答無用の精神」。政府関係委員が始まり，

二二六事件・1936＝48歳：*<二・二六事件>の時，陸軍青年将校の朝日襲撃に際し，単身叛乱軍と対決し，称賛の的になる。東京大阪を一本化した{朝日新聞}主筆となり，代表取締役に就任。
日中戦争始・1937＝49歳：日中戦争が始まって以降，ファシズム追及の手は緩む一方，_海軍大臣となった米内光政と親しくなり，
第二次大戦始1939＝51歳：中国大陸を旅行。
大政翼賛会・1940＝52歳：_米内内閣総辞職直前の新体制準備委員まで，様々な政府関係委員を務める。
日米開戦・・1941＝53歳：創刊2万号となった直後，日米開戦，
・・・・・・1942＝54歳：_ゾルゲ事件の責任をとって，編集担当を退き，
創価学会検挙1943＝55歳：*中野の「戦時宰相論」を掲載して発禁となる。朝鮮に渡り，小磯総督と懇談，南方・中国・満州への長旅後，中野が自刃，葬儀委員長を務め，結果として東条英機と完全対立。副社長の閑職に祭り上げられたが，
年金+総武装 1944＝56歳：_東条内閣総辞職で首相になった小磯の懇請で，退社して国務相兼情報局総裁に就任，"繆斌工作"を主導，
敗戦・・・・1945＝57歳：_失敗で内閣総辞職となり退官したが，鈴木貫太郎首相に懇請されて内閣顧問に就任，東久邇宮内閣成立とともに再び国絡相兼内閣書記官長兼情報局総裁となり，終戦時の混乱収拾に力をつくす。この間，福岡で，母が死去するも行けず。何かと対立していた外相重光葵が退いた後任に，吉田茂を推すも，まもなく総辞職。和泉多摩川の借家に戻り，浪人生活，健康も悪化。GHQに呼ばれた際の応答が藪蛇で，戦犯容疑者に指名されたが，医師診断で収容延期となる。公職追放となるが，
新憲法施行・1947＝59歳：_戦犯容疑を解除され，
浪人中に最も接触した古島一雄からの聞き出し役務めて中央公論に「一老政治家の回想」を連載，
独立回復・・1951＝63歳：*公職追放も解除されると，「人間中野正剛」を刊行し，諸雑誌に次々と敗戦にかけての回想を書き始める一方，古島の説得で政界に復帰，
ﾒｰﾃﾞｰ事件・ 1952＝64歳：_吉田首相の特使の立場で，アジア諸国を歴訪し，帰国後，次々講演に呼ばれ，天皇にも進講。自由党から衆議院選挙福岡県第一区に立候補し，当選，第4次吉田内閣の国務相兼内閣官房長官となる。以後，副総理として，また自由党の領袖として政界に重きをなし，吉田の後継と目される一方，対立陣営から
TV放送始・・1953＝65歳：_吉田の"バカヤロウ解散"後，鳩山一郎一派が離脱，福岡一区トップで再当選し，自由党議席激減するなか，かろうじて成立した第五次吉田内閣でも副総理として入閣し，軍人恩給復活を実現，
自衛隊発足・1954＝66歳：_造船疑獄事件が起こり，指揮権発動して出された内閣不信任案は否決されるも，教育二法・警察法審議で乱闘国会となり，ついに追い詰められた吉田茂に代わって自由党総裁に就任したが，
55年体制始・1955＝67歳：「一軍人の生涯-米内光政の思ひ出-」。_総選挙で惨敗。野党総裁として保守合同に尽力し，同年自由民主党を結成して総裁代行に就任したが，
国連加盟・・1956＝68歳：*急逝。イギリスの{タイムズ}までが死を悼む論評を出した。

三好徹「評伝緒方竹虎」，日本人物誌叢書「新聞界人物評伝」，「没年日本史人物事典」，平凡社百科事典，